

1 自然のはなし

(1)いろいろな自然とそこにすむ生き物たち

はじめに…

愛知県には山から平野、海までいろいろな自然があり、それぞれの自然にあつたたくさんの種類の生き物がつながりをもってすんでいます。



みんなのすんで
いるところには、
どんな自然がある
のかな？



里地・里山



平野と山地との
あいだにある里地・
里山にはカタクリ
などの植物がはえ
ています。

四谷の千枚田
(新城市)

平野・まち



稲の穂が出た田んぼ（一宮市）

家の屋根の下に巣をつくるツバメ、田ん
ぼで卵を産むカエルなど、人間の生活する
場所の近くにもたくさんの生き物がいます。



スナメリ

アマモ

アサリ

ホウロクシギ

ネコギ

ツバメ

ナゴヤダルマガエル

タンポポ

カタクリ

ツキノワグマ

シテコブシ

ハッショウトンボ

ホウロクシギ

アマモ

スナメリ

アサリ

ホウロクシギ

アマモ

スナメリ</p

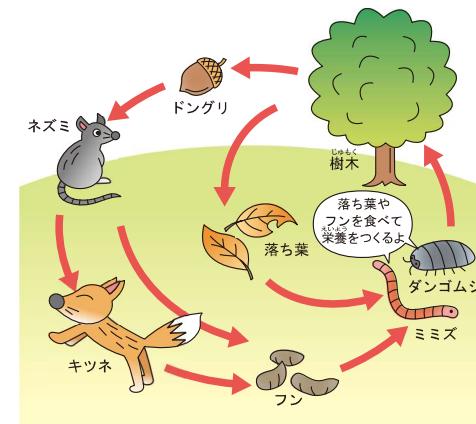
《いろいろな生き物とそのつながり》～生物多様性～

自然の中には森、川、海などさまざまな環境があり、森には森の生き物が、川には川の生き物が、それぞれの環境にあわせて、たくさん生きています。このようにいろいろな生き物が、おたがいにつながりながら生きていることを「生物多様性」といいます。

《いろいろな環境にいろいろな生き物》



《生き物のつながり》



クイズ 生き物はどんな生活をしているのか？

1 カエルがどこで何をしているのか□の中に書いてみよう。



2 それぞれの生き物がどんな生活をしているのか線でつないでみよう。

- ①: ア ユ ○ (ア): 土の中で生まれ、成長すると林や森の中に出てきて木から出る樹液をエサにする。
- ②: ツバメ ○ (イ): 川で生まれ、海へ行って成長し、また川に戻ってきて卵を産む。
- ③: カブトムシ ○ (ウ): 春になると日本にやってきて子育てをし、冬の間は暖かい東南アジアへ行く。

※答えは6ページ

(2)暮らしと自然

さまざまな生き物のつながりの中で、わたしたち人間も、自然からもたらされるめぐみによって支えられています。
わたしたちの暮らしに、自然はどのようにかかわっているのか考えてみましょう。

教室の中の自然



クイズ どんな自然がヒントになったものかな？

どんな自然からアイディアをもらったものか考えて、下の写真を線でつないでみよう。
※答えは6ページ

①カワセミのくちばし



②オナモミの実



③ハスの葉



(ア) 水をはじく素材



(イ) 新幹線の形



(ウ) マジックテープ

(3) 自然の危機

自然は、わたしたちの暮らしにたくさんめぐみを与えてくれますが、
わたしたち人間は、自然にさまざまなえいきょうを与えています。
今、自然には、どのような問題が起こっているのでしょうか。



① 土地の開発や生き物のとりすぎによる危機

建物や道路をつくるために山を切り開いたり、海を埋め立てたりすることで、生き物のすむところが減っています。また、食料や物をつくる材料のために、生き物をとりすぎてしまうと、その生き物がいなくなってしまうこともあります。

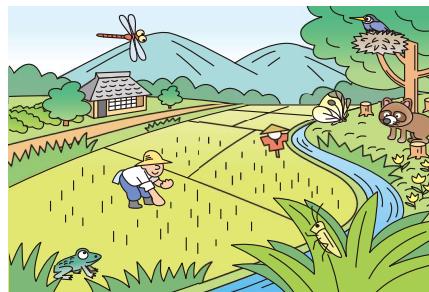


② 人の手が入らなくなったことによる危機

山と平野がつながるあたりの、人がよく利用してきた森は里山と呼ばれています。また、里山の近くで、人が畑や田をつくって暮らしているところは里地と呼ばれています。

このような里地・里山にはたくさんの生き物がすんでいましたが、わたしたちの生活スタイルが変わり、このような自然が使われなくなったことから、森や田が荒れて、生き物がすみにくい場所になってきています。

人の手が入った里地・里山



人の手が入った田は、水辺があり、トンボやカエルなどがすんでいます。また、木を切って日当たりのよくなった森には、鳥やチョウなどたくさんの生き物がすむことができます。

荒れてしまった里地・里山



人の手が入らなくなった田は、水辺がなくなります。木を切らなくなった森は、日当たりが悪くなり、いろいろな生き物のすみかが減ります。

③ 人が持ち込んだ生き物による危機

人間により外国など他の地域から持ち込まれた生き物(外来生物)は、自分の敵となる生き物が少ないなどの理由で、数が異常に増え、もともといた生き物を食べつくしたり、すんでいる場所をうばったりして、自然のバランスをくずしてしまいます。

愛知県で見られる外来生物

ミシシッピアカミミガメ



【原産地】北アメリカ

子ガメは「ミドリガメ」として売られていた。ペットとして飼いきれなくなり、川や池に捨てられたものが増え、もともといたカメのすむ場所などをうばっています。

オオキンケイギク



【原産地】北アメリカ

黄色の花がきれいですが、河原などで増えすぎ、もともといた植物の生える場所をうばっています。

ほかにもどんな外来生物がいるかな。



④ 大きな環境の変化

地球全体にかかる大きな環境の変化が、生き物のすむ場所や生活のリズムなどに、えいきょうを与えていたといわれています。例えば地球温暖化(38ページ)により暖かい地域が広がれば、涼しい山の上にはえる植物や、冷たい川にすむ魚が減ってしまうと考えられます。

①～④の原因により、たくさんの生き物に絶滅の危機が迫っています。

クイズ

愛知県にいる生き物のうち、どれぐらいの生き物が絶滅のおそれにあるのだろう?

愛知県には、約12,450種の動物、約4,490種の植物がいるんだ。



絶滅のおそれのある愛知県の生き物



その中で、絶滅のおそれのある生き物はどれぐらい?

動物・植物あわせて ① 893種 ② 84種 ③ 15種

※「レッドリストあいち2020」のうち絶滅危惧I類・II類掲載種数 ※答えは8ページ

(4) 自然を守るために

自然のバランスがくずれ、そのためぐみを受け取ることができなくなると、わたしたちの生活は大きく変化してしまいます。

大切な自然を守るために、わたしたちに何ができるのか考えてみましょう。

自然の生き物が減ると…



まちの中の緑がなくなると…



雨水をたくわえる森林がなくなると…

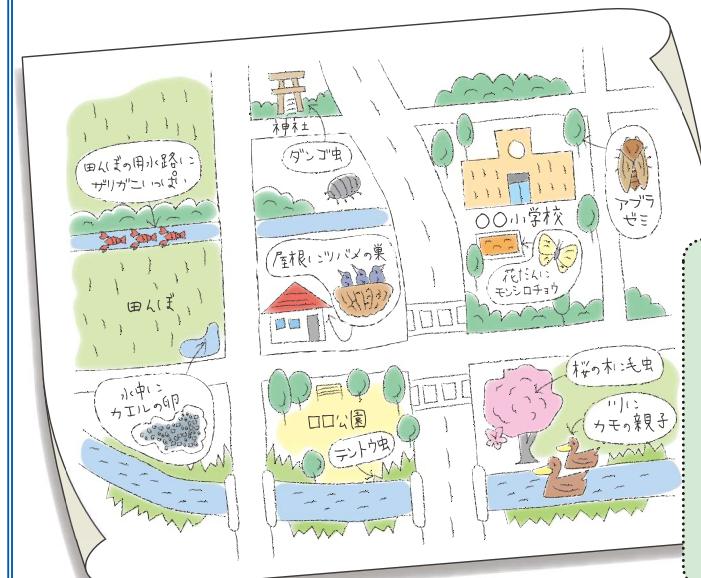


① 自然に关心を持つよう

やってみよう

- ① 学校や家の周りの地図を用意しよう。
- ② 生き物を探し出かけよう。
- ③ どこにどんな生き物がいたか地図にかいてみよう。

見つけた生き物について、スケッチをかいたり、図鑑で調べたりしてみてもおもしろいね。



注意!!

- ・生き物を探し出かける時は大人の人と一緒に行く。
- ・家人に行き先を伝える。
- ・流れが速い川など、危ない場所には近づかない。
- ・車、へび・ハチなどの危険な生き物に注意する。

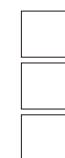
② 自然と正しく述べよう

クイズ

身近な生き物とのつきあい方○×クイズ

次のうち、良いことには○を、良くないことには×を記入しよう。

- ① ペットのカメが大きくなつたので、公園の池に放した。
- ② 家の近くの山でサルを見かけたので、エサをあたえた。
- ③ スズメのヒナが落ちていたので、家で飼うことにした。



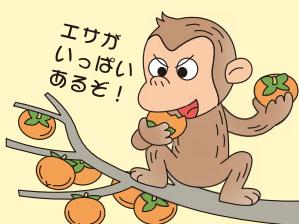
※答えは10ページ

答え:前のページの答えはすべて×だよ



①ペットを放さない

ペットを放すと、もともといた生き物が食べ物などを奪われていなくなってしまうよ。ペットを飼うときは、体が大きくなることや寿命のことも考えて、最後まで責任をもってね。



②野生動物にエサをあたえない

自分でエサをとらなくなったり、数が増え過ぎてしまったりするよ。人間をこわがらなくなると、まちに出てきて人間にがをさせたり、畠をあらしたりするかもしれないよ。



③ヒナを拾わない

近くで親鳥が見守っているよ。人がそばにいると近づけないので、ヒナにさわらずそっとその場所からはなれてね。

③自然を守り、つなげよう

みんなが暮らしているまちの中では、生き物がすめる場所がだんだんと減ってきていています。いろいろな生き物が生きていくためには、今残っている自然を守るとともに、生き物が行き来できるように、はなれた場所にある自然をつなげることが大切です。そのため、みなさんも何ができるか考えてみましょう。

《生き物のすむところのつながり》

開発などにより、もともとあった生き物のすむ場所が分かれて、つながりがなくなってしまったところへ、木々や水辺などで、生き物のすむ場所をつくり、つなげる取組が行われています。（「生態系ネットワーク」の形成）



2つのはなれた池の間に、新しい水辺をつければ、トンボなどの生き物がそれぞれの池の間を行き来できるようになります。

取組紹介

～瀬戸市立掛川小学校～

わたしたちの学校では、豊かな自然やそこにすむ生き物たちを通して、地域を大切に守り育てていく学習をしています。

○蛇ヶ洞川遊び(夏)

学校から歩いて、10分のところに蛇ヶ洞川があります。「川遊び」では、サワガニやヨシノボリなどの生き物たちを捕まえて観察します。また、世界最大の両生類で「生きた化石」と言われるオオサンショウウオも運が良ければ観察することができます。オオサンショウウオは、特別天然記念物に指定されているので捕まえることはできません。でも、瀬戸市が管理している人工巣穴にいれば見ることができます。たくさんの生き物たちがすみ続けられるよう、地域の人たちが中心になって、清掃活動をしています。



○森の学習(春・秋・冬)

学校の隣には、四季の移り変わりを観察することができます。森があります。「木のお医者さんになろう」というテーマでは、元気のない木を探して、「葉っぱがない」「コケが生えている」「皮がめくれている」などに気付き、その特徴をまとめました。また、元気のない木の命を無駄にしないよう、伐採した木を燃料にして焼き芋づくりをしました。